

西郷隆盛と心のうちを

打ち明けあった

村田氏寿



村田氏寿肖像
(福井市立郷土歴史博物館蔵)

NHK大河ドラマ「西郷どん」の主人公、西郷隆盛。この

西郷が心を許した福井の先人が村田氏寿です。

氏寿は、福井藩主、松平春嶽に側近として仕えた人物で、廃藩置県後の初代の福井県参事（現在の知事）を務めたほか、明治新政府では、日本の警察制度創設に尽力したことで知られる人物です。

氏寿と西郷、二人のエピソードが西郷が書いた書簡に残されています。安政4（1857）年3月、氏寿（当時37歳）は春嶽の命を受け、

熊本の著名な政治学者、横井小楠の招へいのため福井を立ちました。その際、氏寿は春嶽から薩摩藩主、島津斉彬あての手紙を預かっており、熊本から鹿児島まで足を延ばします。春嶽と盟友であった斉彬は参勤交代で薩摩に帰国していました。氏寿は鹿児島到着後、斉彬への拜謁を希望しますが、その願いはなかなか叶いません。そんな中、閏5月2日夕刻、氏寿は西郷と初めて対面します。親しく歓談したその翌日、西郷は氏寿に次のような書簡を送ります。「昨夕はゆるゆるとご高話を承り、誠に清々しい気持ちでした。

ご面会して心のうちを打ち明けてしまい、かえって卒爾の至りです。何とぞご容赦ください。さて、承った件（斉彬への面会）、今日にはお達しがあるでしょう。主君の手元からのお達しですので、ご伏蔵なくご糾問してください。…」。この手紙によると二人は面会して打ち解け、話はずんだようです。また、その際、軽率な言動があったのではと反省の弁も述べています。

西郷は、同時に斉彬側近の市来正之丞にも書簡を送り、氏寿が拜謁を急いでいるので、関係者に話を通してほしいと頼んでいます。氏寿と歓談すると同時に、斉彬への拜謁実現のために手を尽くしていた事実から、西郷の微に入り細を穿った性格の一端を知ることができます。

その後、氏寿は、西郷の盟友で、後に敵対した大久保利通の下で新政府の内務大丞兼警保頭（現在の警視総監）となり、全国に広がる警察網の整備や指導監督に当たりました。この頃、大久保と極めて親しく、よく碁をしたという逸話も残っています。氏寿は、明治9（1876）年から、続発した不平士族の反乱（秋月の乱等）の鎮圧に当たりますが、翌年1月、一切の公職を離れます。その後、最大規模の士族反乱、西南

戦争が起きます。氏寿は、これを鎮める立場で西郷と戦場で対峙することはありませんでしたが、西郷死すの報に触れ、20年前の歓談の時を思い出したかもしれません。

関連史料・ゆかりの地

福井県立図書館



続再夢紀事
(松平文庫 (福井県立図書館保管))

福井藩政資料などを多く所蔵する福井県立図書館（松平文庫）。村田氏寿が執筆した『続再夢紀事』も所蔵されています。春嶽の政事総裁職就任と辞任、四侯会議、大政奉還直前の駆け引きなどが記載された重要な歴史書（全22巻）も氏寿の功績の一つです。

【住所】 福井市下馬町51-11 (JR福井駅よりフレンドリーバス「県立図書館」下車)